

アメリカ式とイギリス式の大学制度

一概に海外大学進学といっても、実は海外大学は2種類あるんです。それが、アメリカ式とイギリス式。この2つの国の大学や教育制度は実はかなり違います。それぞれを比較し、どっちがより自分の理想に近いのか、一緒に特徴を見ていきましょう！

アメリカ式：2～4年で卒業可能



一般的に1～2年次で教養科目を中心に学び、2年次後半から3年次前半までに専攻を決め、3～4年次にその専門科目を履修するのがアメリカ式の大学制度です。入学時に専攻科目を決めず、1～2年次は興味がある分野を幅広く学ぶことができます。また、日本の文科省に変わる6つの単位認定団体があり、この団体が認める授業やコースの単位は、別の大学へもそのまま移行することができます。そのため、大学の転校や転部、2年制大学卒業後の4年制大学への編入進学も一般的に行えるのがアメリカの大学の特徴といえます。4年制大学は、リベラルアーツカレッジ (Liberal Arts Colleges)、総合大学 (Universities and Colleges)、専門/単科大学 (Specialized Colleges) の3種類があります。修了すると主に学士号が与えられます。また、2年制大学では、公立2年制大学 (Community Colleges)、私立2年制大学 (Junior Colleges) があります。修了すると主に準学士号/短期大学士号や専門学位などが与えられます。アメリカ式の大学制度の国は、アメリカ、カナダ、日本などがああります。詳しくは、後述「アメリカの教育制度」「イギリスの教育制度」にて。

イギリス式：3年で卒業可能



いわゆる日本の大学の1～2年次で履修する一般教養課程はなく、1年目から専門科目を履修する3年制(1*)のカリキュラムです。学士号はリベラルアーツ (BA)、または社会科学 (BSc) の分野で取得できます。入学1年目から専攻科目をより深く追求していくのがイギリス式の大学制度です。日本の大学の一般教養課程に該当する内容は、16～18歳までの期間シックスフォームカレッジ(2*)で学びます。このように日本の大学1～2年次で履修する内容がすでに高校卒業時に修了されていることになるため、日本の高校を卒業しても一般的には直接イギリス式の大学へ入学することができます。代わりに、ファウンデーションコースと併修する、大学入学準備コースへ入学し、修了後大学へ進学となります。ファウンデーションコースとは、イギリスで高校を卒業せず、シックス・フォームでの内容を履修していない留学生のためのコースです。大学で授業を受けるのに必要な学力と英語力をつけるためのもので、期間は9ヶ月です。イギリス式の大学制度の国は、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなどがあります。

* リベラルアーツ、リベラルアーツカレッジについては巻末の用語集を参照

*1: スコットランドの場合は、通常4年間となります。

*2: 大学受験を目指すために、イギリスで中等教育の最後の2年を過ごすための学校。

教育制度比較

年齢	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
アメリカ	Middle School		High School				College		University	
イギリス	Secondary school			Sixth Form		University				
	学士号を取る 最短年数	一般教養科目	専攻の変更(転部)	日本の高校からの 直入入学	こんな人に向いている	入試ある?	奨学金ある?			
アメリカ式	4年	あり	可	可	学びたい分野・専攻 がまだ決まっていない	原則なし	いろいろあり			
イギリス式	3年	なし	不可	不可	学びたい分野・専攻 が決まっている	原則なし	種類が少ない			

入学試験はなし！ 書類選考がすべての入学基準

海外大学には日本という、入学試験などはありません。これが海外大学は入るのが簡単と言われる理由でしょう。アメリカでは、主に書類選考で合否判定が行われます。各大学が定めた基準に達していれば入学が許可されます。イギリスでは、一般的にファウンデーションコースからの入学です。入学条件の目安はIELTSスコア4.5～5.5、またはTOEFL iBTスコア53～68程度です。志望大学のファウンデーションコースを修了しても、成績によっては同大学に入学できないこともあるので注意が必要です。大学によって異なりますが、一般的に以下のような書類が揃っていれば海外大学に入学することが可能です。

- ・入学願書
- ・高校の成績証明書
- ・英語力を証明するテストの成績：SATやACT、TOEFLやIELTS
- ・英文パーソナルエッセイ、推薦書



知っておきたい！豆知識

リベラルアーツと総合大学の違い



リベラルアーツカレッジとは、全生徒3,000人以下程度のアメリカにある小規模な大学のことを指します。1クラスあたりの人数は通常10～12人程度、最大でも30人程度に抑えられており、クラスはアットホームな雰囲気です。2年次で専攻を確定させるため、1年次では自分の好きな科目を履修することができるのが特徴です。専攻を確定させたのちも、自由に専攻を変えることができ、文理の壁かな授業を履修できるのが魅力的です。また、学生に1対1でチューターや進路カウンセラーが付き、クラスの履修方法や専攻の選び方、将来の進路に至るまで親身になって相談に乗ってくれる学校もあります。こういったきめ細やかなサービスや人間関係を構築できるのも、リベラルアーツカレッジならではの強みです。

総合大学とは、大学院がある比較的大規模な大学のことを指します。在籍人数は各総合大学によって異なりますが、多いところでは全生徒8万人を超えることもあります。リベラルアーツカレッジと異なり、学部が存在しています。生徒は入学後に学部に分かれて、自分の専門分野を学びます。ここで注意してほしいのは、総合大学だからと言って、必ずしも入学前か専攻を決める必要はないということです。1年目はリベラルアーツカレッジのように好きな科目を履修でき、2年次から専攻を選ぶ総合大学もあるようです。校内のイベントやクラブ数がとにかく多いのも総合大学の魅力の一つです。

自分のやりたいことが決まっていない、幅広い分野を学びたい、周りからのサポートが厚い大学に行きたいという人はリベラルアーツカレッジがおすす。専門性の低い、自分でどんどん研究していきたいという人は総合大学がおすす。専門性を極めた、自分でどんどん研究していきたいという人は総合大学がおすす。